

平成 27 年度
やまがた緑環境税の見直しに関する
県民の意識調査結果

1 アンケート調査結果

- | | |
|------------------------|-------|
| (1) 平成 27 年度県政アンケート | P. 1 |
| (2) 個人アンケート | P. 13 |
| (3) 法人アンケート | P. 19 |
| (4) 市町村アンケート | P. 25 |
| (5) みどり環境公募事業実施団体アンケート | P. 27 |
| (6) 森林所有者アンケート | P. 31 |

2 聞き取り調査結果

- | | |
|---------------|-------|
| (1) 市町村担当課長会議 | P. 37 |
| (2) 森づくり意見交換会 | P. 41 |

平成 27 年度
県政アンケート調査
報 告 書

平成 27 年 10 月

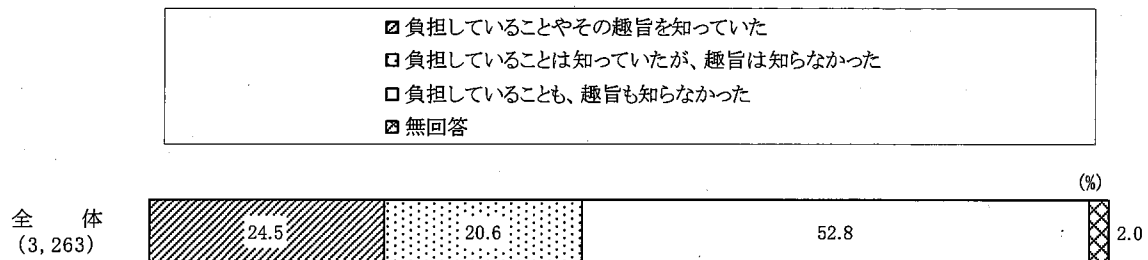
山 形 県

6. 「やまがた緑環境税」について

(1) 「やまがた緑環境税」の認知状況

問 17 やまがた緑環境税制度が平成 19 年 4 月からスタートしましたが、あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨(※)について知っていましたか。(○は1つ)

※ 森林のもつ県土の保全、水源かん養などの公益的機能の維持増進、持続的発揮を図るため、荒廃の進んでいる森林を整備するなど、県民みんなで支える森づくりを進めるための財源として、住民税の納税義務者を対象に、個人から年 1,000 円、法人などから年 2,000 円～80,000 円の税負担をいただくものです。



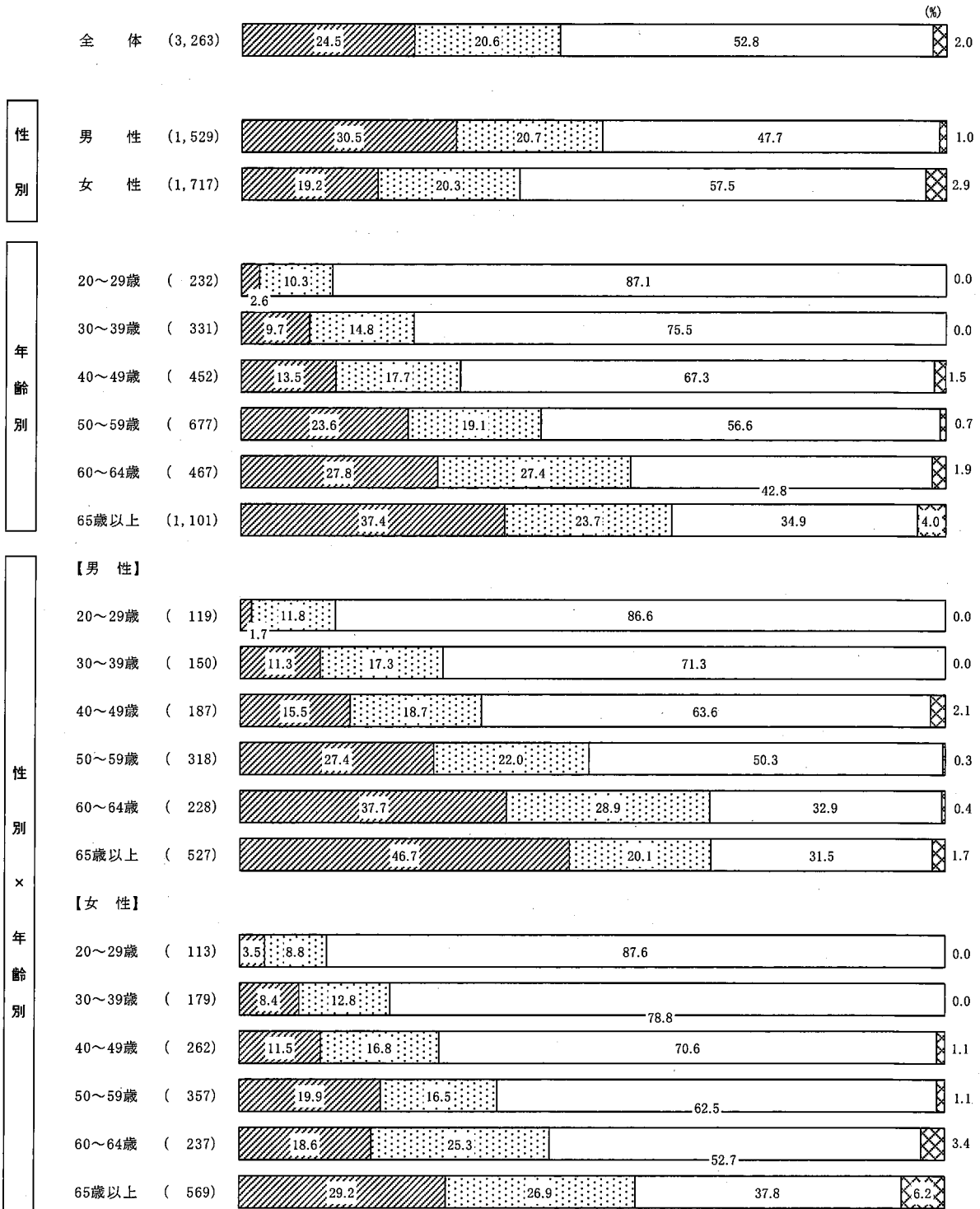
「やまがた緑環境税」の認知状況をたずねたところ、「負担していることやその趣旨を知っていた」(24.5%)と「負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった」(20.6%)を合わせると、負担していることを知っていた人の割合(45.1%)は半数弱を占める。一方、「負担していることも、趣旨も知らなかった」(52.8%)は5割程度となっている。

性別でみると、「負担していることやその趣旨を知っていた」(30.5%)では「男性」が「女性」を11ポイント以上上回っている。

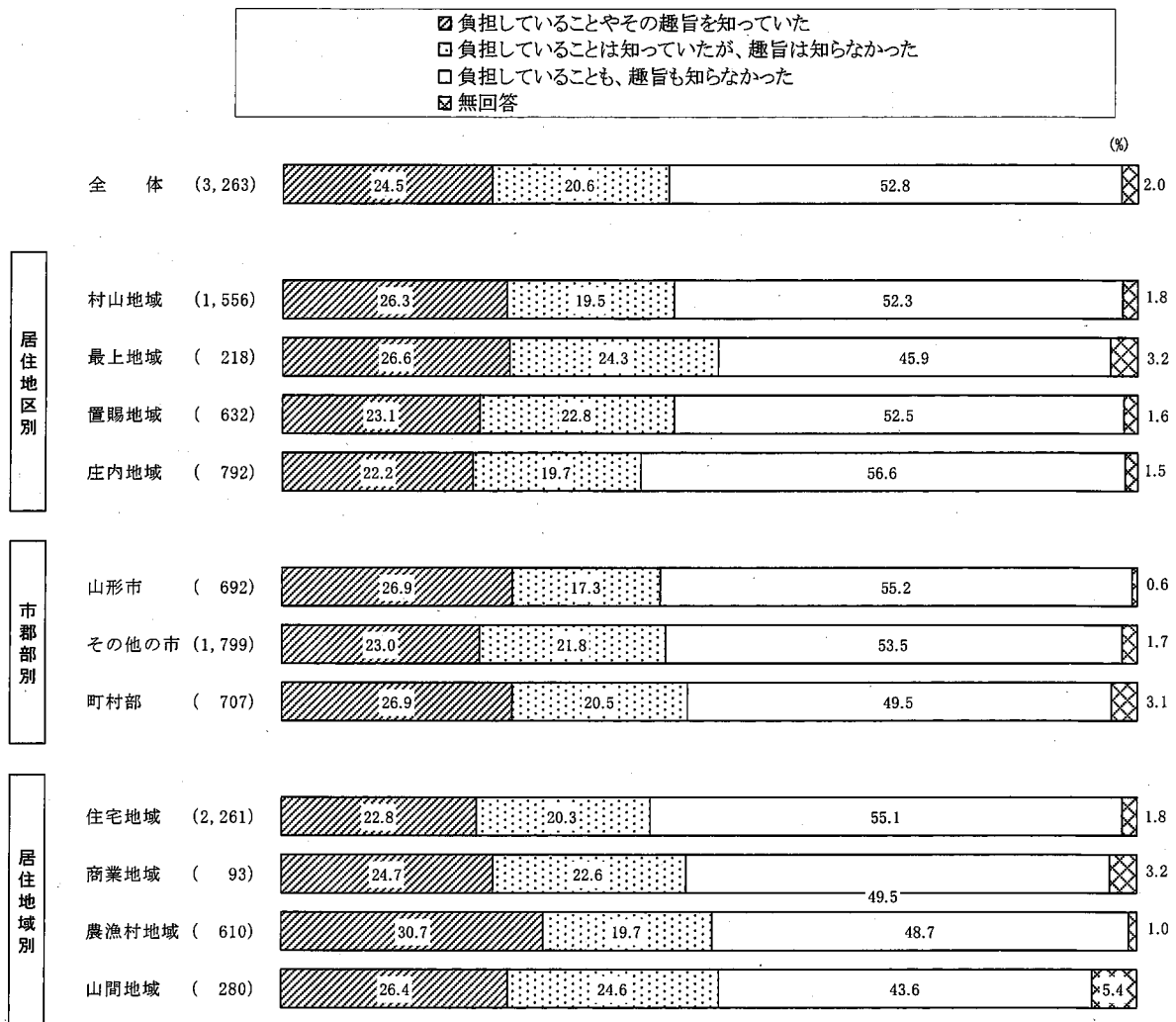
年齢別でみると、「負担していることやその趣旨を知っていた」「負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった」では、年齢があがるにつれて割合が高くなる傾向があり、65歳以上では20～29歳を大きく上回っている。一方、「負担していることも、趣旨も知らなかった」では、年齢が下がるにつれて割合が高くなり、20～29歳では65歳以上を50ポイント以上上回っている。

図表 6-1 「やまがた緑環境税」の認知状況（性別、年齢別、性・年齢別）

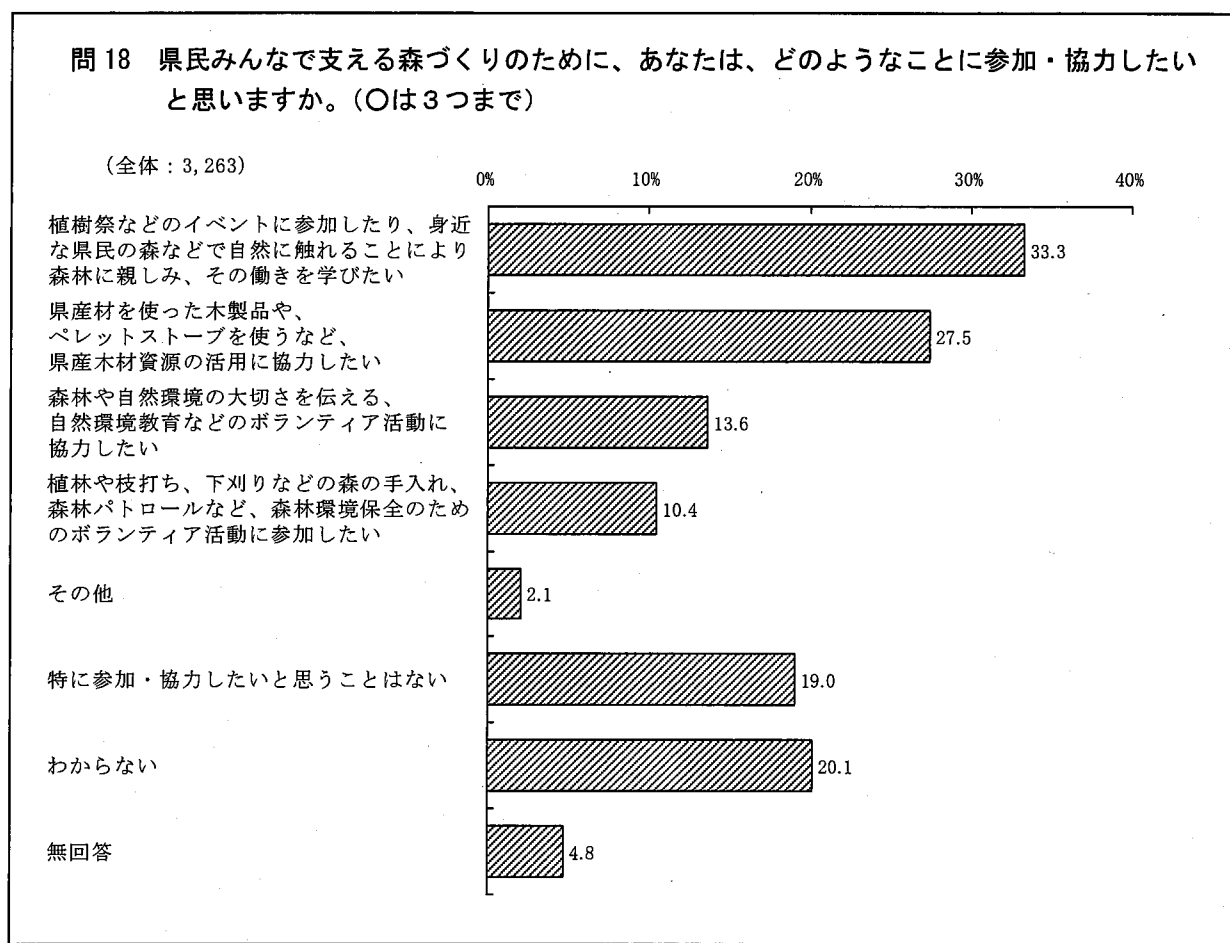
負担していることやその趣旨を知っていた
 負担していることは知っていたが、趣旨は知らなかった
 負担していることも、趣旨も知らなかった
 無回答



図表 6-2 「やまがた緑環境税」の認知状況（居住地区別、市郡部別、居住地域別）



(2) 県民みんなで支える森づくりのために参加したいこと



県民みんなで支える森づくりのためにどのようなことに参加したいかをたずねたところ、「植樹祭などのイベントに参加したり、身近な県民の森などで自然に触れることにより森林に親しみ、その働きを学びたい」(33.3%)との回答が最も多くなっている。次いで、「県産材を使った木製品や、ペレットストーブを使うなど、県産木材資源の活用に協力したい」(27.5%)、「森林や自然環境の大切さを伝える、自然環境教育などのボランティア活動に協力したい」(13.6%)の順となっている。

性別でみると、「植林や枝打ち、下刈りなどの森の手入れ、森林パトロールなど、森林環境保全のためのボランティア活動に参加したい」(13.8%)で男性が女性を上回っている。

年齢別でみると、30～39歳では「植樹祭などのイベントに参加したり、身近な県民の森などで自然に触れることにより森林に親しみ、その働きを学びたい」(36.3%)、「植林や枝打ち、下刈りなどの森の手入れ、森林パトロールなど、森林環境保全のためのボランティア活動に参加したい」(12.1%)が他の年齢層よりも高くなっている。また、60～64歳で「県産材を使った木製品や、ペレットストーブを使うなど、県産木材資源の活用に協力したい」(32.3%)が他の年齢層よりも高くなっている。

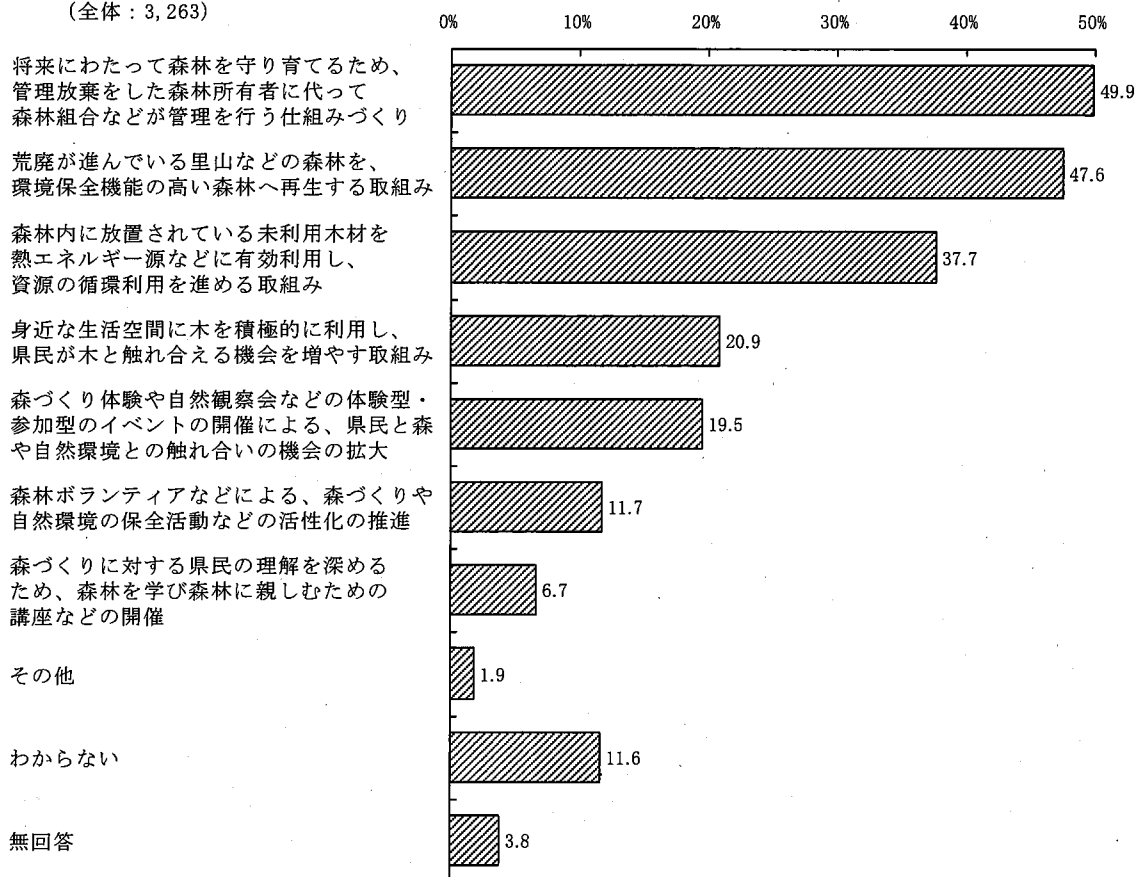
図表 6-4 県民みんなで支える森づくりのために参加したいこと（居住地区別、市郡部別、居住地域別）

		上段：件数 下段：構成比									
		調査数	植樹祭などのイベントに参加した 触れることにより森林に親しみ、 その働きを学びたい	県産木材資源の活用を協力し たい	県産材を使った木製品や、ベ レントストロブを使うなど、	森林や自然環境の大切さを伝 える、自然環境教育などのポ ランティア活動に協力したい	植林や枝打ち、下刈りなどの森の 手入れ、森林パトロールなど、森の 環境保全のためのボランティア活 動に参加したい	その他	特に参加・協力したいと 思うことはない	わからない	無回答
全 体		3,263 100.0%	1,086 33.3%	896 27.5%	444 13.6%	340 10.4%	67 2.1%	621 19.0%	656 20.1%	155 4.8%	
居 住 地 区 別	村 山 地 域	1,556 100.0%	524 33.7%	418 26.9%	198 12.7%	172 11.1%	22 1.4%	312 20.1%	316 20.3%	52 3.3%	
	最 上 地 域	218 100.0%	78 35.8%	64 29.4%	30 13.8%	31 14.2%	2 0.9%	30 13.8%	40 18.3%	14 6.4%	
	置 賜 地 域	632 100.0%	208 32.9%	162 25.6%	110 17.4%	66 10.4%	22 3.5%	114 18.0%	132 20.9%	36 5.7%	
	庄 内 地 域	792 100.0%	260 32.8%	240 30.3%	98 12.4%	66 8.3%	20 2.5%	150 18.9%	158 19.9%	40 5.1%	
	無回答(県外・ 不明含む)	65 100.0%	16 24.6%	12 18.5%	8 12.3%	5 7.7%	1 1.5%	15 23.1%	10 15.4%	13 20.0%	
市 郡 部 別	山 形 市	692 100.0%	234 33.8%	164 23.7%	72 10.4%	54 7.8%	14 2.0%	152 22.0%	142 20.5%	14 2.0%	
	そ の 他 の 市	1,799 100.0%	620 34.5%	521 29.0%	251 14.0%	176 9.8%	35 1.9%	324 18.0%	348 19.3%	93 5.2%	
	町 村 部	707 100.0%	216 30.6%	199 28.1%	113 16.0%	105 14.9%	17 2.4%	130 18.4%	156 22.1%	35 5.0%	
	無回答(県外・ 不明含む)	65 100.0%	16 24.6%	12 18.5%	8 12.3%	5 7.7%	1 1.5%	15 23.1%	10 15.4%	13 20.0%	
居 住 地 域 別	住 宅 地 域	2,261 100.0%	763 33.7%	577 25.5%	289 12.8%	212 9.4%	53 2.3%	440 19.5%	469 20.7%	101 4.5%	
	商 業 地 域	93 100.0%	34 36.6%	27 29.0%	12 12.9%	4 4.3%	0 0.0%	19 20.4%	17 18.3%	9 9.7%	
	農 漁 村 地 域	610 100.0%	218 35.7%	202 33.1%	97 15.9%	79 13.0%	10 1.6%	100 16.4%	113 18.5%	17 2.8%	
	山 間 地 域	280 100.0%	64 22.9%	87 31.1%	40 14.3%	42 15.0%	2 0.7%	55 19.6%	55 19.6%	27 9.6%	
	無 回 答	19 100.0%	7 36.8%	3 15.8%	6 31.6%	3 15.8%	2 10.5%	7 36.8%	2 10.5%	1 5.3%	

(3) 森づくりに重要な取組み

問 19 やまがた緑環境税を活用して森づくりを進めるにあたって、あなたは、どのような取組みが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

(全体：3,263)



やまがた緑環境税を活用した森づくりに重要な取組みについてたずねたところ、「将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄をした森林所有者に代って森林組合などが管理を行う仕組みづくり」(49.9%)との回答が最も多く、「荒廃が進んでいる里山などの森林を、環境保全機能の高い森林へ再生する取組み」(47.6%)が僅差で続く。

性別で見ると、「荒廃が進んでいる里山などの森林を、環境保全機能の高い森林へ再生する取組み」(51.7%)では男性が女性を上回っている。

年齢別で見ると、30～39歳では「森づくり体験や自然観察会などの体験型・参加型のイベントの開催による、県民と森や自然環境との触れ合いの機会の拡大」(27.5%)、50～59歳では「荒廃が進んでいる里山などの森林を、環境保全機能の高い森林へ再生する取組み」(55.4%)、60～64歳では「将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄をした森林所有者に代って森林組合などが管理を行う仕組みづくり」(56.7%)が他の年齢層よりも高くなっている。

図表 6-5 森づくりに重要な取組み（性別、年齢別、性・年齢別）

		上段：件数 下段：構成比																	
		調査数	高い森林を再生する取組み	荒廃が進んでいる里山など環境保全機能の向上	管理放棄した森林の管理を行う仕組みづくり	将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄した森林の有者に代って森林組合などが管理を行う仕組みづくり	触れ合いの機会の拡大	体験型・参加型のイベントなどの開催	森づくりに体験や自然観察などによる、市民と森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	身近な生活空間に木を積極的に利用する機会を増やす取組み	保全活動などの活性化の推進	森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の推進	開林に親しむための講座などの開催	森づくりに対する県民の理解を深めるための講座などの開催	効果的な取組み	森林内に設置されている未利用木材をエネルギー源などに有効活用し、資源の循環利用を進める取組み	その他	わからない	無回答
性別	全体	3,263 100.0%	1,552 47.6%	1,628 49.9%	637 19.5%	681 20.9%	381 11.7%	218 6.7%	1,230 37.7%	62 1.9%	379 11.6%	125 3.8%							
	男性	1,529 100.0%	791 51.7%	765 50.0%	296 19.4%	308 20.1%	180 11.8%	116 7.6%	601 39.3%	33 2.2%	144 9.4%	36 2.4%							
	女性	1,717 100.0%	755 44.0%	853 49.7%	337 19.6%	371 21.6%	197 11.5%	99 5.8%	621 36.2%	29 1.7%	234 13.6%	89 5.2%							
年齢別	無回答	17 100.0%	6 35.3%	10 58.8%	4 23.5%	2 11.8%	4 23.5%	3 17.6%	8 47.1%	0 0.0%	1 5.9%	0 0.0%							
	20～29歳	232 100.0%	92 39.7%	77 33.2%	55 23.7%	42 18.1%	31 13.4%	16 6.9%	51 22.0%	6 2.6%	39 16.8%	4 1.7%							
	30～39歳	331 100.0%	123 37.2%	165 49.8%	91 27.5%	82 24.8%	44 13.3%	17 5.1%	131 39.6%	10 3.0%	28 8.5%	1 0.3%							
	40～49歳	452 100.0%	195 43.1%	196 43.4%	90 19.9%	90 19.9%	60 13.3%	29 6.4%	157 34.7%	12 2.7%	78 17.3%	8 1.8%							
	50～59歳	677 100.0%	375 55.4%	346 51.1%	136 20.1%	124 18.3%	84 12.4%	48 7.1%	277 40.9%	13 1.9%	62 9.2%	10 1.5%							
	60～64歳	467 100.0%	231 49.5%	265 56.7%	93 19.9%	93 19.9%	37 7.9%	43 9.2%	190 40.7%	2 0.4%	39 8.4%	22 4.7%							
	65歳以上	1,101 100.0%	535 48.6%	578 52.5%	171 15.5%	250 22.7%	124 11.3%	65 5.9%	423 38.4%	19 1.7%	132 12.0%	80 7.3%							
	無回答	3 100.0%	1 33.3%	1 33.3%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%							
性別×年齢	男性	20～29歳	119 100.0%	49 41.2%	29 24.4%	26 21.8%	24 20.2%	15 12.6%	8 6.7%	27 22.7%	2 1.7%	21 17.6%	4 3.4%						
		30～39歳	150 100.0%	55 36.7%	77 51.3%	37 24.7%	37 24.7%	16 10.7%	7 4.7%	48 32.0%	8 5.3%	10 6.7%	1 0.7%						
		40～49歳	187 100.0%	85 45.5%	68 36.4%	29 15.5%	34 18.2%	20 10.7%	10 5.3%	72 38.5%	8 4.3%	36 19.3%	4 2.1%						
		50～59歳	318 100.0%	185 58.2%	163 51.3%	69 21.7%	48 15.1%	52 16.4%	26 8.2%	128 40.3%	7 2.2%	20 6.3%	0 0.0%						
		60～64歳	228 100.0%	124 54.4%	139 61.0%	44 19.3%	42 18.4%	17 7.5%	25 11.0%	105 46.1%	2 0.9%	11 4.8%	9 3.9%						
		65歳以上	527 100.0%	293 55.6%	289 54.8%	91 17.3%	123 23.3%	60 11.4%	40 7.6%	221 41.9%	6 1.1%	46 8.7%	18 3.4%						
		無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%						
	女性	20～29歳	113 100.0%	43 38.1%	48 42.5%	29 25.7%	18 15.9%	16 14.2%	8 7.1%	24 21.2%	4 3.5%	18 15.9%	0 0.0%						
		30～39歳	179 100.0%	68 38.0%	88 49.2%	54 30.2%	45 25.1%	26 14.5%	10 5.6%	83 46.4%	2 1.1%	18 10.1%	0 0.0%						
		40～49歳	262 100.0%	109 41.6%	126 48.1%	61 23.3%	56 21.4%	39 14.9%	18 6.9%	85 32.4%	4 1.5%	42 16.0%	4 1.5%						
		50～59歳	357 100.0%	188 52.7%	183 51.3%	65 18.2%	76 21.3%	32 9.0%	22 6.2%	147 41.2%	6 1.7%	42 11.8%	10 2.8%						
		60～64歳	237 100.0%	107 45.1%	124 52.3%	49 20.7%	49 20.7%	20 8.4%	18 7.6%	85 35.9%	0 0.0%	28 11.8%	13 5.5%						
		65歳以上	569 100.0%	240 42.2%	284 49.9%	79 13.9%	127 22.3%	64 11.2%	23 4.0%	197 34.6%	13 2.3%	86 15.1%	62 10.9%						
		無回答	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%						

図表 6-6 森づくりに重要な取組み (居住地区別、市郡部別、居住地域別)

上段：件数 下段：構成比

		調査数	高い森林を再生する取組み	荒廃が進んでいる里山など環境保全機能の向上	管理放棄を防止する取組み	将来にわたって森林を守り育てるため、管理放棄を防止する取組み	触れ合いの機会を拡大	森づくり体験や自然観察会などの体験型・参加型のイベントの開催	みれ合える機会を増やす取組み	身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と積極的に関わる機会を増やす取組み	進歩的な生活空間の活性化の推進	森林ボランティアなどによる森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	開林に親しむための講座などの森づくりに対する県民の理解を深めるための講座などの森づくりに対する取組み	木材を熱エネルギーなどに有効利用し、資源の循環利用を進める取組み	その他	わからない	無回答
全体		3,263 100.0%	1,552 47.6%	1,628 49.9%	637 19.5%	681 20.9%	381 11.7%	218 6.7%	1,230 37.7%	62 1.9%	379 11.6%	125 3.8%					
居住地区別	村山地域	1,556 100.0%	764 49.1%	794 51.0%	316 20.3%	322 20.7%	186 12.0%	102 6.6%	586 37.7%	26 1.7%	168 10.8%	58 3.7%					
	最上地域	218 100.0%	99 45.4%	102 46.8%	39 17.9%	39 17.9%	21 9.6%	13 6.0%	89 40.8%	5 2.3%	21 9.6%	8 3.7%					
	置賜地域	632 100.0%	282 44.6%	304 48.1%	128 20.3%	104 16.5%	68 10.8%	50 7.9%	244 38.6%	14 2.2%	90 14.2%	30 4.7%					
	庄内地域	792 100.0%	384 48.5%	404 51.0%	144 18.2%	202 25.5%	100 12.6%	46 5.8%	290 36.6%	14 1.8%	90 11.4%	20 2.5%					
	無回答(県外・不明含む)	65 100.0%	23 35.4%	24 36.9%	10 15.4%	14 21.5%	6 9.2%	7 10.8%	21 32.3%	3 4.6%	10 15.4%	9 13.8%					
市郡部別	山形市	692 100.0%	366 52.9%	360 52.0%	130 18.8%	136 19.7%	70 10.1%	44 6.4%	264 38.2%	12 1.7%	74 10.7%	12 1.7%					
	その他の市	1,799 100.0%	875 48.6%	915 50.9%	351 19.5%	367 20.4%	218 12.1%	119 6.6%	697 38.7%	33 1.8%	207 11.5%	65 3.6%					
	町村部	707 100.0%	288 40.7%	329 46.5%	146 20.7%	164 23.2%	87 12.3%	48 6.8%	248 35.1%	14 2.0%	88 12.4%	39 5.5%					
	無回答(県外・不明含む)	65 100.0%	23 35.4%	24 36.9%	10 15.4%	14 21.5%	6 9.2%	7 10.8%	21 32.3%	3 4.6%	10 15.4%	9 13.8%					
居住地域別	住宅地域	2,261 100.0%	1,080 47.8%	1,130 50.0%	457 20.2%	485 21.5%	252 11.1%	143 6.3%	836 37.0%	48 2.1%	277 12.3%	73 3.2%					
	商業地域	93 100.0%	46 49.5%	45 48.4%	29 31.2%	14 15.1%	12 12.9%	11 11.8%	29 31.2%	0 0.0%	13 14.0%	3 3.2%					
	農漁村地域	610 100.0%	313 51.3%	341 55.9%	102 16.7%	118 19.3%	81 13.3%	46 7.5%	239 39.2%	12 2.0%	50 8.2%	21 3.4%					
	山間地域	280 100.0%	107 38.2%	111 39.6%	46 16.4%	61 21.8%	33 11.8%	18 6.4%	122 43.6%	2 0.7%	30 10.7%	28 10.0%					
	無回答	19 100.0%	6 31.6%	1 5.3%	3 15.8%	3 15.8%	3 15.8%	0 0.0%	4 21.1%	0 0.0%	9 47.4%	0 0.0%					

◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（個人）

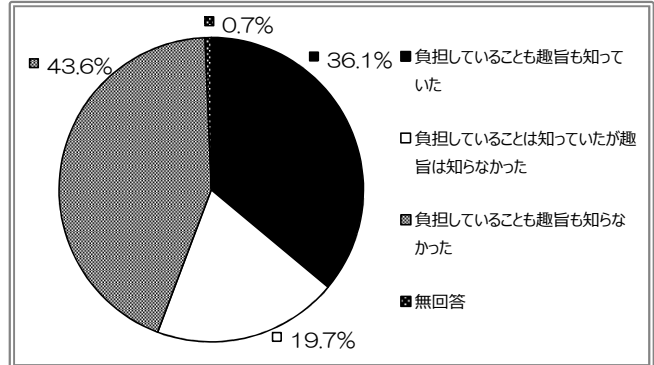
<調査の概要>

- 1 対 象：県内居住の満20歳以上の男女
- 2 期 間：平成27年9月～12月
- 3 回 答：2,892人

<アンケート内容>

問1 あなたは「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。

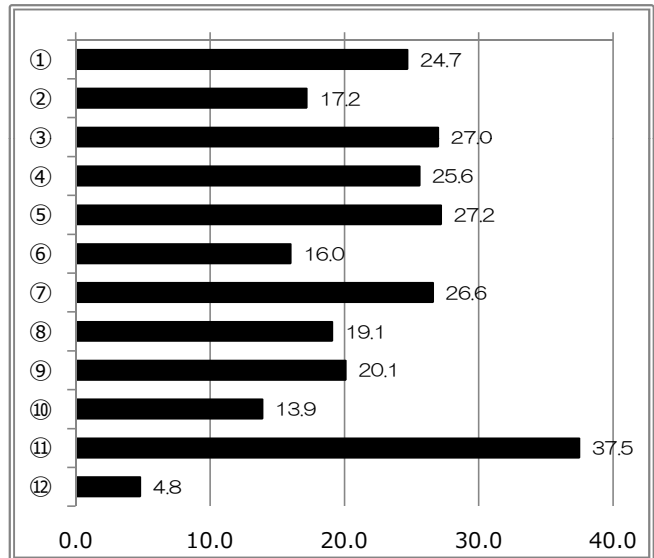
認知度	回答数
① 負担していることも趣旨も知っていた	1,043
② 負担していることは知っていたが趣旨は知らなかった	569
③ 負担していることも趣旨も知らなかった	1,261
④ 無回答	19
計	2,892



問2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（複数回答）

（単位：% 回答者2,892名に対する回答の割合）

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	24.7
② 再造林や間伐などの施策を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	17.2
③ 被害木の伐採などにより、病害虫等で荒れた里山林を再生	27.0
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	25.6
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	27.2
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	16.0
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	26.6
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」の推進	19.1
⑨ 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催	20.1
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の東のりなど、森林内の生き物に関する調査	13.9
⑪ わからない	37.5
⑫ 無回答	4.8
計	



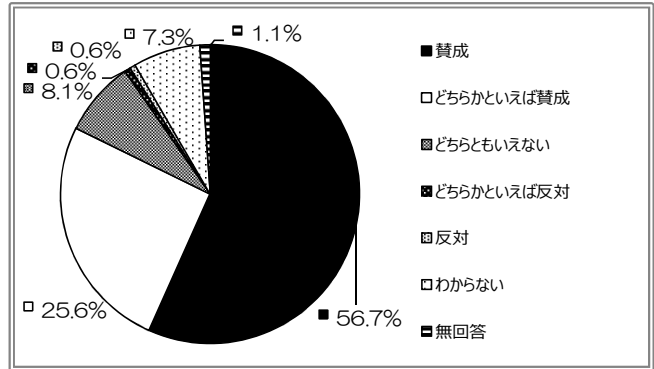
◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（個人）

<調査の概要>

- 1 対 象：県内居住の満20歳以上の男女
- 2 期 間：平成27年9月～12月
- 3 回 答：2,892人

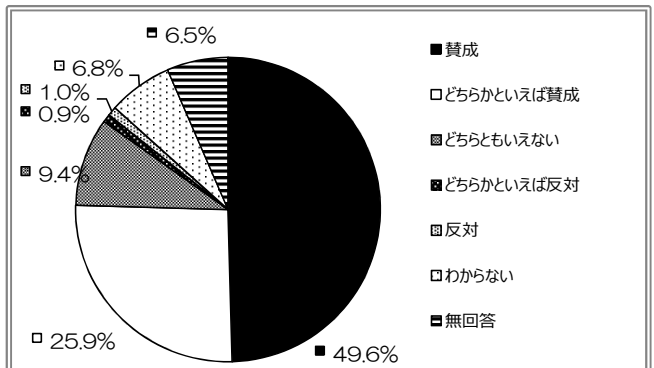
問3 あなたは、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。

使いみち	回答数
① 賛成	1,640
② どちらかといえば賛成	739
③ どちらともいえない	234
④ どちらかといえば反対	18
⑤ 反対	18
⑥ わからない	211
⑦ 無回答	32
計	2,892



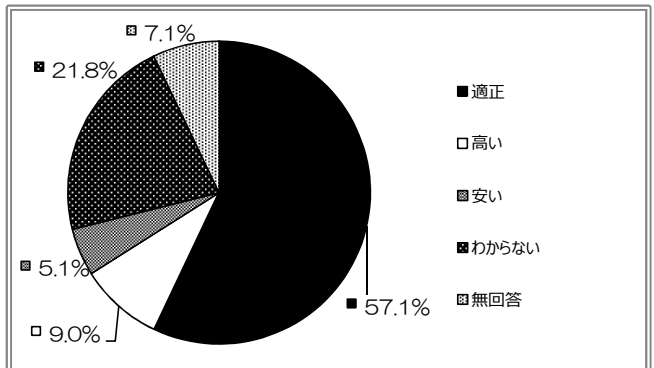
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、あなたはどのように考えますか。

継続	回答数
① 賛成	1,433
② どちらかといえば賛成	749
③ どちらともいえない	271
④ どちらかといえば反対	25
⑤ 反対	28
⑥ わからない	198
⑦ 無回答	188
計	2,892



問5 やまがた緑環境税の税額について、あなたはどのように考えますか。

税額	回答数
① 適正	1,650
② 高い	259
③ 安い	147
④ わからない	630
⑤ 無回答	206
計	2,892



◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（個人）

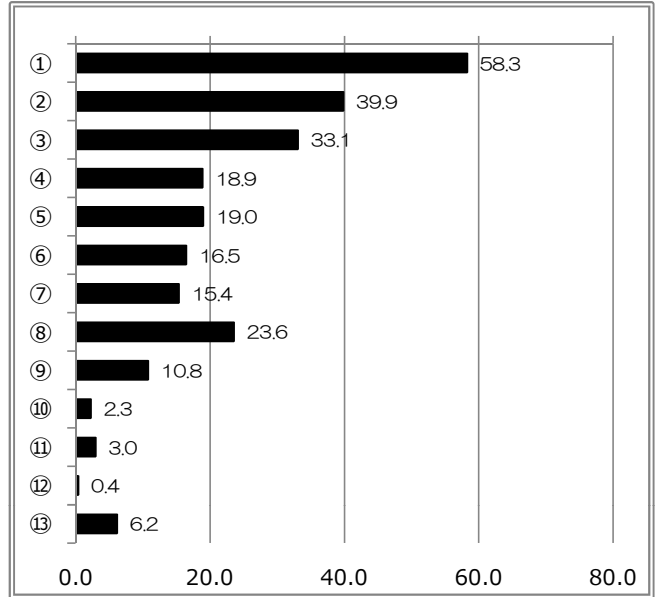
<調査の概要>

- 1 対 象：県内居住の満20歳以上の男女
- 2 期 間：平成27年9月～12月
- 3 回 答：2,892人

問6あなたは、今後、森林のどのような働きに期待しますか（複数回答）

（単位：% 回答者2,892名に対する回答の割合）

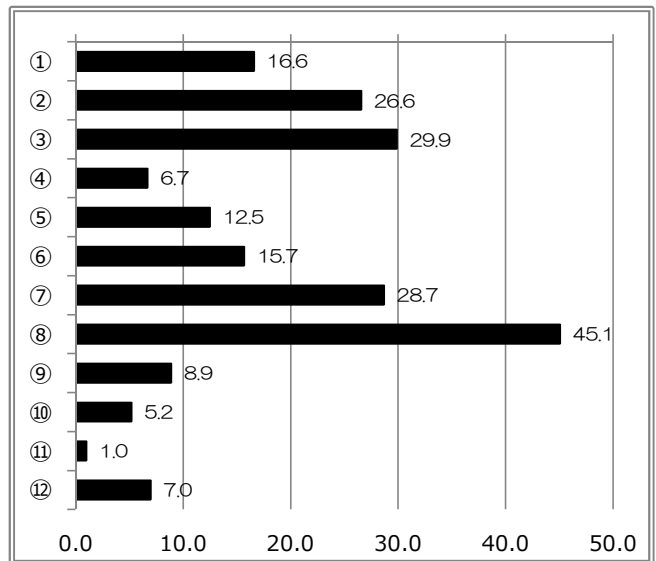
森林の働き	回答数
① 山崩れや洪水などの災害を防止する働き	58.3
② 地球温暖化防止に貢献する働き	39.9
③ 水資源を蓄える働き	33.1
④ 空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	18.9
⑤ 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	19.0
⑥ 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	16.5
⑦ 貴重な野生動物植物の生息の場としての働き	15.4
⑧ 自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き	23.6
⑨ きのこと山菜などの林産物を生産する働き	10.8
⑩ 特になし	2.3
⑪ わからない	3.0
⑫ その他	0.4
⑬ 無回答	6.2
計	



問7あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。

（単位：% 回答者2,892名に対する回答の割合）

森林との関わり	回答数
① 植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	16.6
② 県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	26.6
③ 山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心したい	29.9
④ 森林環境学習などについて学び、指導者として活動に関心したい	6.7
⑤ 森林内に生息する動物植物の保全活動や、生き物調査に参加したい	12.5
⑥ 気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心したい	15.7
⑦ 山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	28.7
⑧ 森林浴により心身の気分転換を図りたい	45.1
⑨ 特になし	8.9
⑩ わからない	5.2
⑪ その他	1.0
⑫ 無回答	7.0
計	



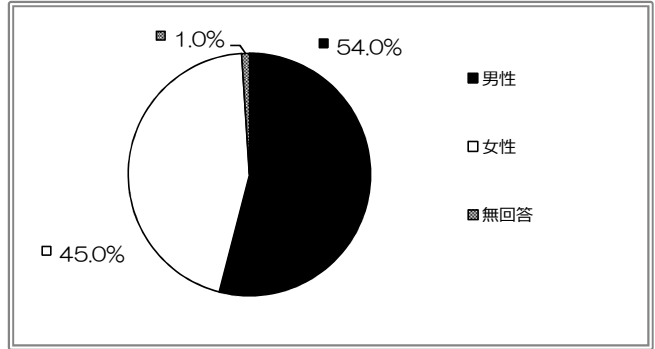
◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（個人）

<調査の概要>

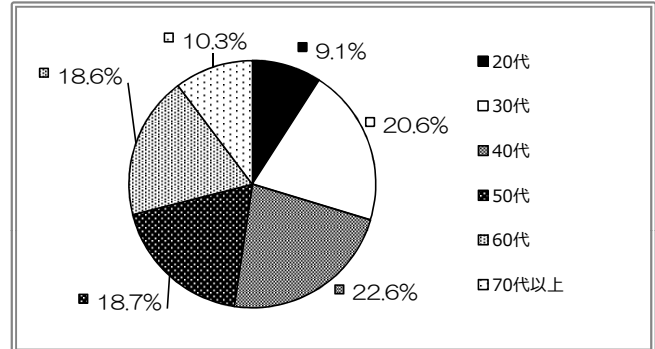
- 1 対 象：県内居住の満20歳以上の男女
- 2 期 間：平成27年9月～12月
- 3 回 答：2,892人

<調査対象の属性>

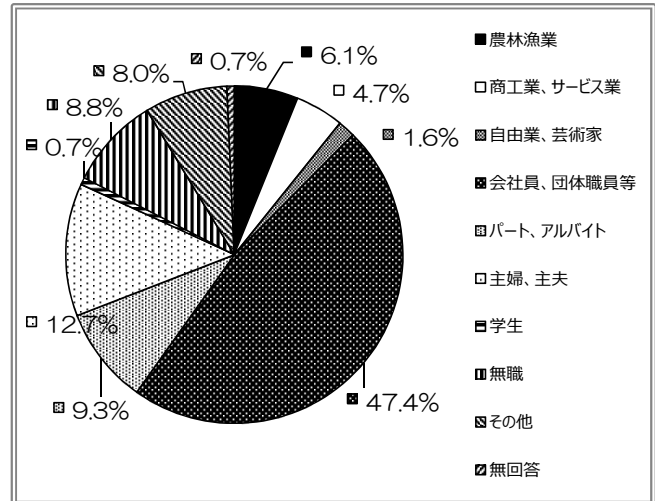
性別	回答数
① 男性	1,562
② 女性	1,300
③ 無回答	30
計	2,892



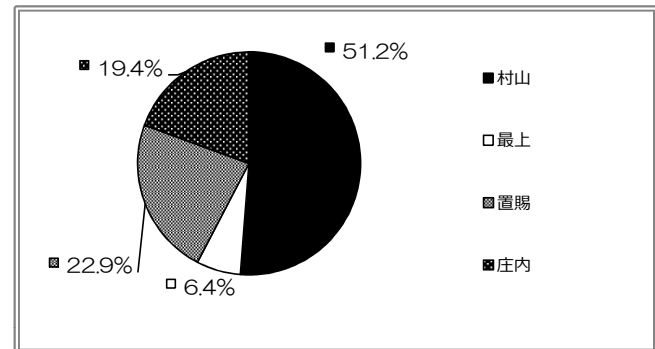
年代	回答数
① 20代	263
② 30代	596
③ 40代	655
④ 50代	541
⑤ 60代	539
⑥ 70代以上	298
計	2,892



職業	回答数
① 農林漁業	177
② 商工業、サービス業	135
③ 自由業、芸術家	47
④ 会社員、団体職員等	1,371
⑤ パート、アルバイト	269
⑥ 主婦、主夫	368
⑦ 学生	20
⑧ 無職	255
⑨ その他	230
⑩ 無回答	20
計	2,892



所在地	回答数
① 村山	1,482
② 最上	186
③ 置賜	663
④ 庄内	561
計	2,892



個人アンケート自由意見

●税全般

- ・「緑環境」を守り増やすことは、将来を担う子供たちのためにも、地球環境を守るためにも重要なこと。ぜひとも積極的に進めて欲しい。
- ・森林の整備には賛成だが、そもそも緑環境税がなければ森林の整備が出来ないのか？
- ・環境税を廃止して欲しい。勝手に税金を取られるのは腑に落ちない。
- ・大型イベントの経費を、森林の保全活動にまわしてもらいたい。
- ・森林保全は国土の保全であり、本来国が手立てすべきもの。県税でなく国税でやるべき。

●ハード

- ・個人所有林などを主に整備しているが、公有地や公社造林地も対象としたらどうか。
- ・森林境界をはっきりさせる補助を追加出来ないか。
- ・自力で整備している山林所有者も援助してもらいたい。
- ・荒廃した森林を今以上に手入れしてほしい
- ・荒れた森林が多く見受けられるため、整備してほしい。
- ・近年自然災害が多発しているので、災害に強い森林に誘導してほしい。
- ・里山環境の整備や絶滅危惧種の保護にも取り組んでももらいたい
- ・病虫害被害箇所の森林整備はぜひ継続してほしい。
- ・景観保全のため、ナラ枯れや松枯れ等の被害木の処理に力を入れてほしい。
- ・森林や動植物の生態が、本来の姿を取り戻せるような事業に力を注いでほしい。
- ・荒廃森林の整備のみならず、植林にも力を入れる必要があるのでは。
- ・スギだけではなく、広葉樹も増やしてほしい。
- ・林道や作業道の維持管理や開設を優先的に行ってもらいたい。
- ・住宅や道路沿いの枯木は、県民の安全確保のため全て処分してもらいたい。
- ・大規模集約型林業ではなく、自伐採林業を推進すべき。

●ソフト

- ・税を集める以上、趣旨や使い道、事業の成果を県民に広く知らせてほしい。
- ・もっと活動の内容、収支を明らかにし、県民の賛同と参加を呼び込むべき
- ・県民の森のように、森林中での活動を通して自然に親しめる場所がもっとあればよい。
- ・もっと広く市民が参加出来る森づくりや自然と触れ合う企画があればいい。
- ・森づくり活動を行っている森林ボランティアや小中高の生徒児童が交流出来る企画が欲しい。
- ・子供たちが自然中でのびのびと遊べる遊び場をたくさん作ってほしい。
- ・小学生でも、簡単に親しみやすく森林の学習が出来る機会を増やして欲しい。
- ・教育の場に、木・森林について考える機会を増やして欲しい。
- ・林業を、若者にとって魅力のあるものにして欲しい。
- ・山林所有者の後継者へ、森林の価値、手入れ方法等を教える講習会を実施して欲しい。
- ・県産材の利用拡大に、もっと力を入れて欲しい。
- ・エネルギーとしての活用を、森林のサイクルと共に進めるべき。
- ・緩衝林帯の造成により、動物と人間の住む境界をはっきりさせる取り組みを進めて欲しい。
- ・野生動物との「共存のあり方」や「農作物被害の対策」などについてもっと重点を置いて、里山保全などの活動に取り組んでももらいたい。
- ・民間の方々への公募事業の予算を拡大するべき。
- ・公募事業の事務手続きを簡素化し、取り組みやすくして欲しい。
- ・ボランティア団体の増加により1団体当たりの助成額が毎年減少し、活動が完全に出来ない。
- ・地球温暖化改善のための森林整備に力を入れてもらいたい。

◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（法人）

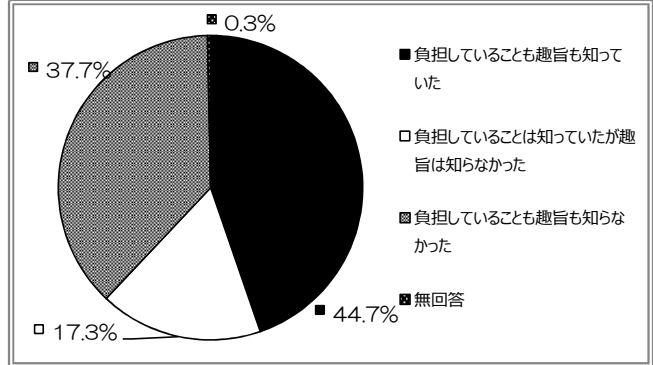
<調査の概要>

- 1 対 象：山形県内の地域法人会 会員
- 2 期 間：平成27年9月～11月
- 3 回 答：640社

<アンケート内容>

問1 貴社は「やまがた緑環境税」や税の趣旨について知っていますか。

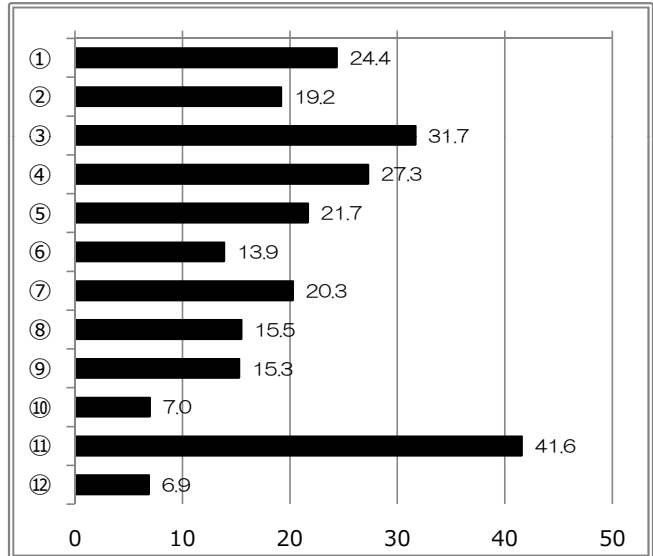
認知度	回答数
① 負担していることも趣旨も知っていた	286
② 負担していることは知っていたが趣旨は知らなかった	111
③ 負担していることも趣旨も知らなかった	241
④ 無回答	2
計	640



問2 やまがた緑環境税は次の事業に活用されていますが、知っていますか。（複数回答）

（単位：% 回答法人数640法人に対する回答の割合）

事業の認知度	回答数
① スギ人工林に広葉樹を導入し、水資源の保全など公益機能の高い森林を育成	24.4
② 再造林や間伐などの施策を一元管理し、森林の公益的機能を持続的に発揮する仕組みを構築	19.2
③ 被害木の伐採などにより、病害虫等で荒れた里山林を再生	31.7
④ 未利用木材を、木質バイオマス燃料などとして有効利用する取組み	27.3
⑤ 森づくり体験や自然観察会などの体験型イベントの開催による、森や自然環境との触れ合いの機会の拡大	21.7
⑥ 身近な生活空間に木を積極的に利用し、県民が木と触れ合える機会を増やす取組み	13.9
⑦ 森林ボランティアなどによる、森づくりや自然環境の保全活動などの活性化の推進	20.3
⑧ 企業が、県や森林所有者と協働で森づくり活動を行う「やまがた絆の森プロジェクト」の推進	15.5
⑨ 森づくりに対する県民の理解を深めるため、小学生等を対象とした森林を学び森林に親しむための講座などの開催	15.3
⑩ クマなどの野生動物や希少な動植物、山の実のりなど、森林内の生き物に関する調査	7.0
⑪ わからない	41.6
⑫ 無回答	6.9



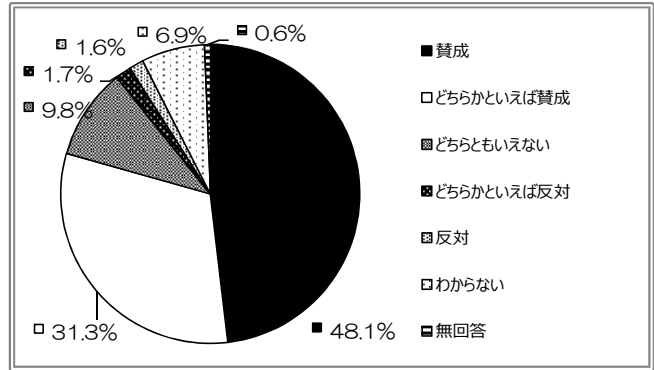
◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（法人）

<調査の概要>

- 1 対 象：山形県内の地域法人会 会員
- 2 期 間：平成27年9月～11月
- 3 回 答：640社

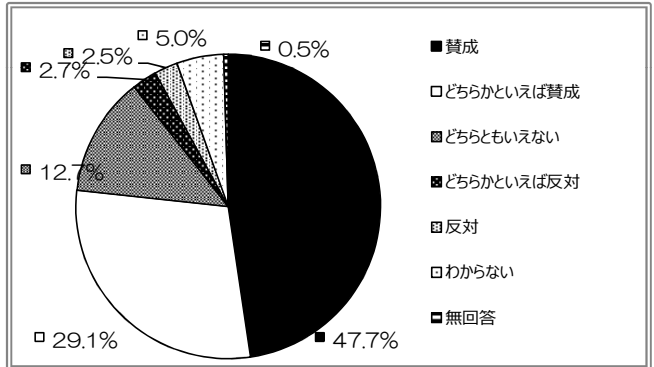
問3 貴社は、これまでやまがた緑環境税を活用して進めてきた取組みについてどう思いますか。

使いみち	回答数
① 賛成	308
② どちらかといえば賛成	200
③ どちらともいえない	63
④ どちらかといえば反対	11
⑤ 反対	10
⑥ わからない	44
⑦ 無回答	4
計	640



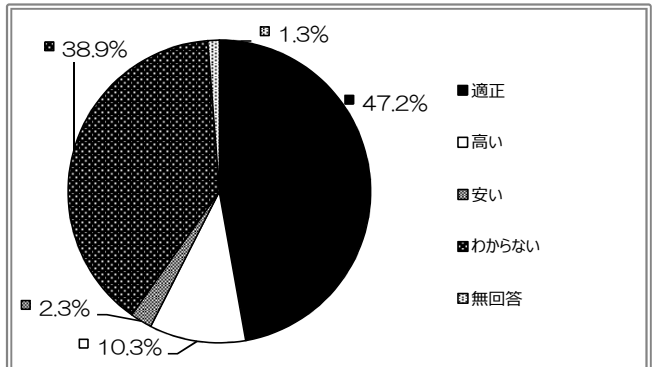
問4 今後も引き続きやまがた緑環境税を継続することについて、貴社はどのように考えますか。

継続	回答数
① 賛成	305
② どちらかといえば賛成	186
③ どちらともいえない	81
④ どちらかといえば反対	17
⑤ 反対	16
⑥ わからない	32
⑦ 無回答	3
計	640



問5 やまがた緑環境税の税額について、貴社はどのように考えますか。

税額	回答数
① 適正	302
② 高い	66
③ 安い	15
④ わからない	249
⑤ 無回答	8
計	640



◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（法人）

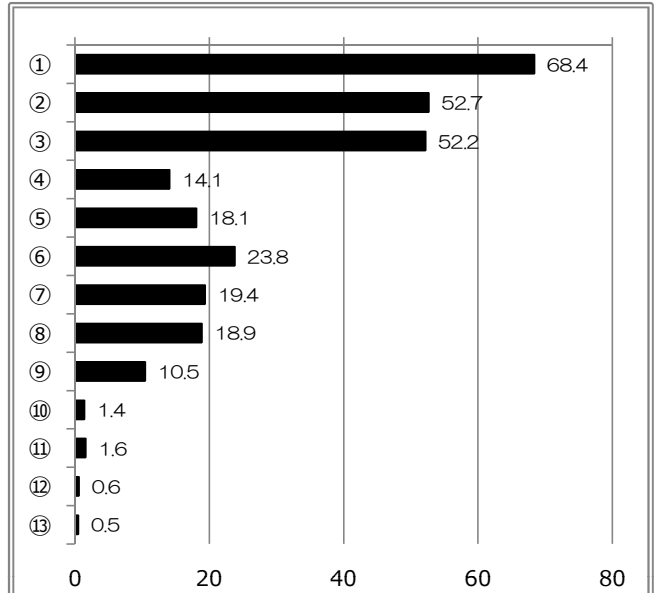
<調査の概要>

- 1 対 象：山形県内の地域法人会 会員
- 2 期 間：平成27年9月～11月
- 3 回 答：640社

問6 貴社は、今後、森林のどのような働きに期待しますか（複数回答）

(単位:% 回答法人数640法人に対する回答の割合)

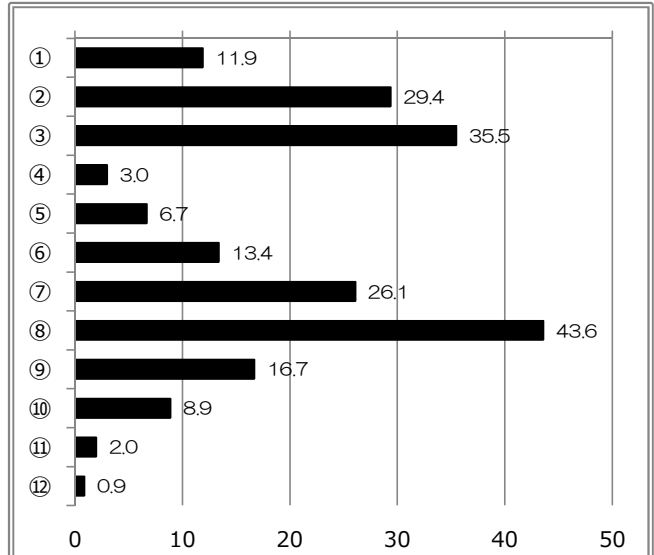
森林の働き	回答数
① 山崩れや洪水などの災害を防止する働き	68.4
② 地球温暖化防止に貢献する働き	52.7
③ 水資源を蓄える働き	52.2
④ 空気をきれいにしたり、騒音をやわらげる働き	14.1
⑤ 心身の癒しや安らぎの場を提供する働き	18.1
⑥ 住宅用建材や家具、紙、バイオマスエネルギーなどの原材料となる木材を生産する働き	23.8
⑦ 貴重な野生動物の生息の場としての働き	19.4
⑧ 自然に親しみ、森林と人とのかかわりを学ぶなど教育の場としての働き	18.9
⑨ きのこと山菜などの林産物を生産する働き	10.5
⑩ 特になし	1.4
⑪ わからない	1.6
⑫ その他	0.6
⑬ 無回答	0.5



問7 あなたは、森林に関わることでどのようなことをしてみたいと思いますか。

(単位:% 回答法人数640法人に対する回答の割合)

森林との関わり	回答数
① 植林や下刈りなどの育林作業に参加したい	11.9
② 県民の森など身近で安心な場所で森林に親しみ、森の案内人の方々から様々な知識を学びたい	29.4
③ 山形県産の木製品や薪を使うなど、県産木材資源の活用に関心がある	35.5
④ 森林環境学習などについて学び、指導者として活動に関心がある	3.0
⑤ 森林内に生息する動植物の保全活動や、生き物調査に関心がある	6.7
⑥ 気の合う仲間とサークルを作り、自然の中で行う様々な活動に関心がある	13.4
⑦ 山菜やきのこを育てることで、山の恵み・大切さを実感したい	26.1
⑧ 森林浴により心身の気分転換を図りたい	43.6
⑨ 特になし	16.7
⑩ わからない	8.9
⑪ その他	2.0
⑫ 無回答	0.9



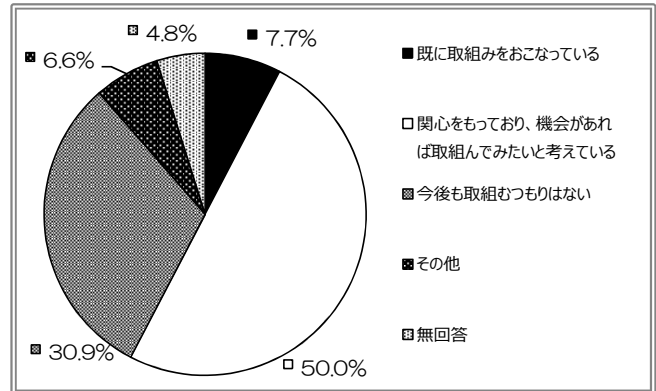
◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（法人）

<調査の概要>

- 1 対 象：山形県内の地域法人会 会員
- 2 期 間：平成27年9月～11月
- 3 回 答：640社

問6 貴社は、森林を活用した社会貢献活動（CSR）を行ってみようと思いますか。

税額	回答数
① 既に取り組みをおこなっている	49
② 関心をもっており、機会があれば取組んでみたいと考えている	320
③ 今後も取組むつもりはない	198
④ その他	42
⑤ 無回答	31
計	640



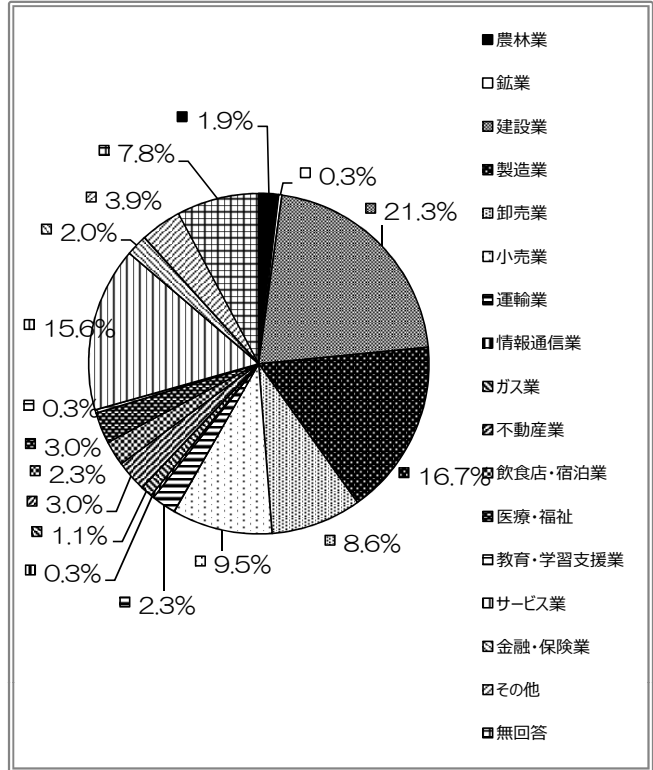
◆ やまがた緑環境税に関するアンケート調査結果（法人）

<調査の概要>

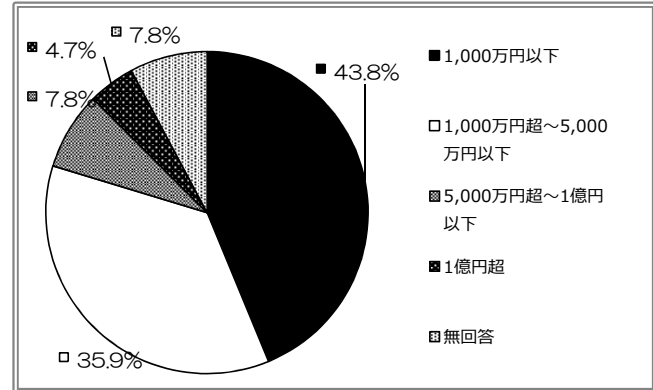
- 1 対 象：山形県内の地域法人会 会員
- 2 期 間：平成27年9月～11月
- 3 回 答：640社

<調査対象の属性>

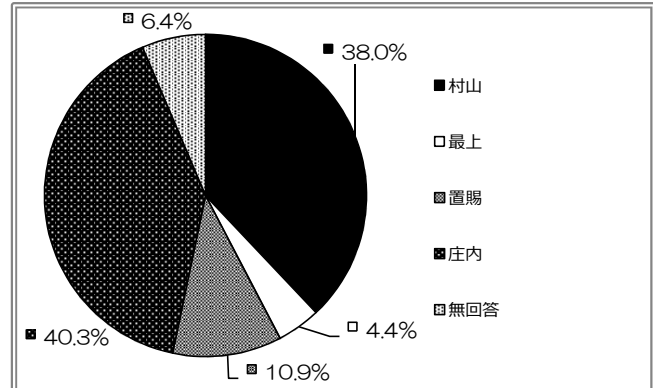
回答法人の業種	回答数
① 農林業	12
② 鉱業	2
③ 建設業	136
④ 製造業	107
⑤ 卸売業	55
⑥ 小売業	61
⑦ 運輸業	15
⑧ 情報通信業	2
⑨ ガス業	7
⑩ 不動産業	19
⑪ 飲食店・宿泊業	15
⑫ 医療・福祉	19
⑬ 教育・学習支援業	2
⑭ サービス業	100
⑮ 金融・保険業	13
⑯ その他	25
⑰ 無回答	50
計	640



回答法人の資本金	回答数
① 1,000万円以下	280
② 1,000万円超～5,000万円以下	230
③ 5,000万円超～1億円以下	50
④ 1億円超	30
⑤ 無回答	50
計	640



回答法人の所在地	回答数
① 村山	243
② 最上	28
③ 置賜	70
④ 庄内	258
⑤ 無回答	41
計	640



法人アンケート自由意見

●税全般

- ・森林資源を利用する住宅関連、家具メーカーやその他の関連企業が資源、環境の保全にもっと責任を持つべき。
- ・緑環境税は現状のままに留めて欲しい。現状は追認するが、増税には反対。
- ・税額を今以上に高くし、森林保存及び拡大のスピードを上げる必要があるのでは。
- ・私有林は個人の責任。緑環境税は、税金の二重課税。税の用途は公有林に限定すべき。
- ・調査やイベントよりも、実際に山を守る再造林、間伐、あるいは未利用木材の有効利用に使って欲しいと思います。
- ・県内でも荒廃した森林が多く、手つかずになっているので特に山林整備に緑環境税を活用してもらいたい。

●ハード

- ・森林所有者の境界が判明していないと聞く。明確化を進めて欲しい。
- ・住宅地等の危険区域、山崩れや洪水などの災害を防止する取組をもっと強化
- ・災害の多発等を考えると地球温暖化防止のために、森林を整備して二酸化炭素の吸収源としての役割の向上。
- ・間伐、植林、下刈り等森林整備を行ってほしい。特に山岳観光地周辺の森林景観を魅力あるものにしてほしい。
- ・所有地に於て間伐してもらったが片付けが一切ないので反って乱雑になり草刈もできない状態です。最後まで責任を持って間伐材も処理すべきでしょう。
- ・山行苗木生産者に対する助成を検討願いたい。
- ・植付のための皆伐へ補助を検討願いたい。
- ・鳥獣害による被害が拡大しているため、被害防止対策の支援、強化が必要。
- ・スギ花粉の飛散量の少ない品種への切替を早急に実施、もしくは他の品種を導入する。
- ・森林は社会資本であるという前提のもとに、防災、水源かん養、CO2 吸収と O2 供給等の公益機能を高めて欲しい。
- ・一般企業や個人の家庭向けのバイオマスボイラーやストーブ等の導入について、積極的な啓蒙と支援措置の拡充を期待します。
- ・バイオマス、木材を利用した 熱利用、発電等機動力を持って取組んでほしい。

●ソフト

- ・どのようなことをしているかが、納税者に全然伝わってきません。もっと、活動内容がわかるよう、努力していただきたいと思います。
- ・「やまがた緑環境税」の目的・趣旨・用途などについて良く理解されていないので、PRを取行ない事業を進める必要があると思います。
- ・緑環境税がどの位あつまって、どの様に使用されているのかさっぱりわからない。県のHPで確認したが身近に感じられない。
- ・緑環境税が導入されてから10年近く経過しているので、一般の人達の中には、この税の趣旨と用途について意識が薄れて来ているように思います。
- ・地域住民・企業を巻き込んだイベント、その情報発信を更に行って欲しい。
- ・子供も大人も気軽に参加できる事業を行ってほしい。
- ・小、中、高生が緑環境税のしくみと活用について学び自然の大切さを学べる事に税を使って欲しいです。
- ・中学校、高校、大学、各学校で森林環境学習などについて学び学校の行事として、森林整備に取り組む。
- ・地域の子供達をもっと森に親しむ事が出来る活動を検討してほしい。
- ・こどものころから森林の大切さを考える様な教育が必要と考えます。
- ・身近な場所で子供から大人まで森林に親しめる場所を整備して頂きたい。
- ・林業従事者を何とかして増やして行く工夫が大切と考えます。